

令和8年4月6日 始業式

おはようございます。初めまして。校長の坂元久美子です。

前任の相川校長先生から、横浜栄高校の皆さんが大変すばらしい生徒であること、学習も部活動も、何事にも日々懸命に取り組んでいることを聞いています。

こうして、皆さんに出会えたことを、とてもうれしく思います。

今日は年度初め、私が皆さんに望むことをお話しします。

横浜栄高校は「自ら未来を切り拓く人」を育てる学校だ、と聞いています。では、皆さんが思い描く未来、どんな未来ですか。未来を考えるとき、どうやって皆さんは考えますか。

社会はこのようにあるべきだ、とか、世界がこうなっていないく
てはならない、とか、私も作文することはできます。が、格好だけではないか、本当に自分はそう思えるのか。未来を考える出発点は、自分の心が動かされること、親しい人・自分が深く関わる人たちに関係することだと私は思います。自分事として考えられるところから出発する。それが本当のアイデアだと思うのです。いきなり全く知らない世界のことを考える、もちろんダメではあ

りません。が、もっと知りたい・関わりたいと自分の気持ちが動くことこそ、熱心に真剣に考え、取り組めるものだと思います。

そこで、私の希望です。日々、何事にも一生懸命に取り組んでいる皆さん、その延長線上にある未来がどうなってほしいか、考えてみてください。今より少し先の日々をイメージしてください。こうだったらいいな、それはどうしたらできるかな。そこに近づくには、どんな方法があるかな。始まりは、なりたい自分です。次に、なりたい自分が実現するとき、周りの人はどうだろう、と考えてみてください。近くにいる人、できるならもう少し広く多くの人のことを思って、未来がどうなると良いのか、考えてみてください。

未来は誰かがつくってくれるものでなく、自分が周りの人たちとつくっていくものです。やってもらうのを待つのではなく、自分が行動を起こす、試す、挑戦することを、いろいろな場面で意識してやってみてください。

私は、「皆さん一人ひとりが幸せである未来」であってほしいと願っています。また、自分だけ幸せ、というのは本当の幸せでは

ない、とも思います。自分以外の人、他者の幸せも考えてみてください。親しい人や身の回りのことから、他者の幸せのために自分ができるところを考えられる人たちがたくさんいたら、最高です。皆さんには、それができる十分な資質・能力があります。

大変な時、困ったときは、「助けて」ということも忘れないてください。遠慮は不要です。横浜栄には、皆さんと一緒に考え、挑戦を応援してくれる先生方がいますから。

皆さん一人ひとりの、未来に向けた挑戦を期待しています。

以上で、私の話を終わります。